

情報の広場

b) 表彰関係の規定追加

今年度から、優秀講演賞・R & D 振興賞が新たに追加されます。今回は、新賞検討 WG が作成した表彰関係内規の変更案を審議しました。賞を選考する選奨委員や主担当者を誰にするか、などが議論の中心になりました。何分にも、優秀講演賞はこの秋の学術講演会に間に合わせなければなりませんので、現在の理事会メンバーで結論を出す必要があります。このため、あと 1 回理事会を開いて審議することになりました。

c) 会員の状況

前回理事会以降会の会員の状況について事務局から、説明がありました。入会希望者は学生会員を含め 14 名、退会希望者 29 名がそれぞれ承認されました。その他会費未納者についても納入催促するなどの議論がありました。

平成 13 年 4 月 19 日現在、正会員は 2,407 名、学生会員 309 名、名誉会員 20 名および賛助会員は 125 社（184 口）です。

2. 財務関係の審議事項

a) 平成 13 年度収支予算

年度末をむかえ前年度の決算額が確定したため、平成 13 年度の収支予算 2 次案が提案されました。この案では、前期繰り越し 1 次案に比べ 38 万円増加しました。支出面では、事務局職員の退職金、給料手当・福利厚生費の追加見直しなどの結果、収支は 22 万円の黒字を見込んでいます。

b) 平成 12 年度収支決算

会費収入は当初の見込みに比べ約 200 万円、事業収入は 380 万円ほど少なくなっています。この点は、今後注意しなければならないことです。しかし、支出では事業費が約 52 万円、管理費が 50 万円見込みよりも少なくなったため、全体として 27 万円の赤字にとどめる結果となりました。

なお、この収支決算書は、貸借対照表、財産目録などとともに

通常総会の第 2 号議案として提出します。

3. 企画関係審議事項

a) 平成 12 年度事業報告

荒井企画理事から、平成 12 年度の事業計報告の提案説明があった。審議の結果、処務の概要に一部追加し、これを総会の第 1 号議案として提出します。

b) 協賛・共催依頼

協賛 3 件、共催 1 件の依頼があり、内容は当学会員にとっていずれも関係が深いのでこれらを一括承認しました。

4. 編集関係

(1) 報告事項

山田編集理事から、編集委員会および編集幹事会の審議は順調に進んでいて、学会誌編集は 26 卷 2 号および 3 号まで主査を決め、次回にその企画案を審議する段階にあるとの報告がありました。

(2) 審議事項

a) 平成 13 年度・14 年度編集委員

編集委員会から提案された、今後 2 年間の編集委員長、論文委員長および編集・論文・英文誌の各幹事ならびに 40 名の委員について審議し異議なく承認されました。

b) 投稿規定（和文および英文）の見直し

英文誌の発行に関する追加および新技術紹介・新製品紹介記事の条項の見直しが変更の主な点です。和文・英文とも問題なく承認されました。

c) 学会誌編集内規および編集委員会規定

これら二つの規則は、いずれも昭和 63 年以降、見直されていないため今回の英文誌発行を機会に関係する条項を追加または見直しました。理事会では問題なく承認されました。

書評

記録・メモリ材料ハンドブック

逢坂哲彌、山崎陽太郎、石原 宏編集、朝倉書店発行、416 頁、2000 年 11 月、¥16,000、ISBN: 4-254-20098-6

田舎にいる悲しいことに、書籍はタイトルと書店の出す概要で発注することが多い。まず、最初に言うことは、書名はハンドブックとあるが、内実はかなり高度な専門解説書である。

内容は第一編磁気記録材料、第二編光および光磁気ディスク、第三編半導体メモリ材料と三分野に括られ、その中をさらに多くの章に分けて本学会でもおなじみの一流の技術者がそれぞれの専門分野を分担執筆している。タイトルに不都合がある点は、純然たる材料と製造設計だけではなく、装置構成に至る部品構造や方式にまで包含していることである。これは、私が「記録材料とメモリ材料」のハンドブック（カタログを読むとそうなる）と考えたからで、「記録ハンドブック」+「材料ハンド

ブック」と解釈する方が正しいかもしれない。材料が苦手な私にとって、製造ノウハウを事細かに記載されていないのは不満であるが、記憶分野の総括的な技術動向を一気に読めることは「儲け」であった。

具体的には最新の媒体とその製造法、スピンドルや GMR ヘッド、MSR 方式や多值光記録、フラッシュメモリーに FeRAM など、最先端のデバイス技術を一堂に集めてあり、幅が広すぎて全体のストーリー性は判然としないものの、個々の章を取り出すだけで立派な技術資料となる中身の濃いものである。初学者にはいささか高等すぎるが、当該分野の技術者が隣接分野の技術を参照する上ではよい参考書といえよう。引用、参考文献もしっかりしている。

本書のもう一つの特徴はそれぞれの編に大胆な将来展望を設けてあることである。概して将来展望を記載することは、書籍の鮮度を示す反面、何年か後には古くなってしまうこと

が多く、確定した資料を中心としたものに比べて短命であることが多い。あえてこのような章を設けた意図に敬意を表したい。特に、第二編のプログラム記憶、第三編の強誘電体メモリ、MRAMの章はこの分野の夢多き将来を予見させるもので、示唆されるところも多く、読んでいて楽しいものであった。

実は、私の研究室にはこの本がもう一冊あり、院生が読んでいて最近のMotorola社のMRAM開発発表を機に読破し、同様の感想をもったようである。決して安い本ではなく、著者は悪いが学生に買えと勧めるつもりはないものの、研究室において学生に貸し出したい本である。(和歌山大 越本泰弘)

案 内

第三回サー・マーティン・ウッド賞

趣 旨	凝縮系科学にかかわる若手研究者に対して研究のインセンティヴ、モティベーションを与えます。
対象分野	広い意味の凝縮系科学（例：固体物理学、固体化学、材料科学、表面物理）
候補者	日本における研究機関で、凝縮系科学における優れた業績をあげた40歳以下（2001年4月1日現在）の若手研究者。国籍は問わない。
賞の内容	受賞は毎年1件ないし2件とし、受賞者には賞状、賞金50万円と英国のいくつかの大学への講演旅行の機会が与えられます。
推薦依頼先	関係専門分野の有職者、関連諸学会
推薦件数	各推薦者、推薦団体からそれぞれ一件とします。
推薦方法	所定の推薦用紙に必要事項をご記入の上、締切期日までに到着するよう下記事務所にお送り下さい。
	自薦も受け付けます。自薦、他薦共に、候補者の業績内容を最も良く理解していると考えられ、当方より問い合わせ照会のできる2名の方（推薦者以外の方）の氏名、所属、肩書き、連絡先を記入して下さい。
締切期日	2001年8月1日（水）
選考	ミレニアム・サイエンス・フォーラム実行委員会にて審査、選考します。
決定	2001年9月の予定です。
賞の贈呈	2001年11月に駐日英國大使館（東京）で行う予定です。

推薦書提出先および連絡先

〒135-0047 東京都江東区富岡2-11-6
オックスフォード・インストゥルメンツ株式会社
内
ミレニアム・サイエンス・フォーラム事務局
Tel: 03-5245-3251 Fax: 03-5245-4472
E-mail: oikk-hr@oxford-instruments.ne.jp

KAST 平成14年度 新規研究プロジェクト募集

財団法人 神奈川科学技術アカデミー(KAST)の研究プロジェクトは、科学技術の創造拠点を目指し、先端的かつ高度な科学技術における基礎・応用研究を、卓越した若手リーダーの指揮のもとに行っております。

この度、平成14年度にスタートする新規プロジェクトの研究テーマを下記のとおり広く募集します。

応募資格: 提案者がリーダーとなります。申請時に45歳以下（非常勤も可）。

研究開始: 平成14年4月1日

研究期間: 5年間または3年間

研究場所: 原則として神奈川県内で準備します。

募集締切: 平成13年6月29日（金）

提出書類: 研究計画概要（指定様式による）、主要論文を添付。

問合せ先: 詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

(財)神奈川科学技術アカデミー 研究部研究調整課
高田または中村

〒213-0012 川崎市高津区坂戸3-2-1 KSP西棟
614

Tel: 044-819-2034 Fax: 044-819-2026

E-mail: res@ksst.or.jp

URL: <http://home.ksp.or.jp/kast/>